

重要伝統的建造物群保存地区の景観保全

—生活環境・観光地としての活用と将来性—

本論文の目的は、重要伝統的建造物群保存地区（以下重伝建地区）に選定された地区において、どのような景観保全の取り組みがされているかを調査することである。そして、その地が持つ役割をもとに、土地や資源がどのように活用されているのかについても調べ、その地区の将来について考察する。

多くの重伝建地区では、伝統的建造物の保存に支障をきたし、空き家対策が必要になるなどの課題を抱えている。さらに、観光地化されている重伝建地区では、観光公害も問題視されており、持続可能な観光の実現のためには解決しなければならない事項が存在する。各地区は、課題にどのように向き合っているのか、将来的にどのような地域を目指していて、実現可能性はあるのかについてもあわせて考える。

本論文では、筆者に馴染み深く、景観保全への取り組みに興味を持つきっかけとなった川越市川越を軸に検討する。

価値ある景観を保全し持続可能なものにするためには、行政が方針を明確にし、地域住民の生活環境を守りつつ協力を得て共存できる環境づくりが重要である。景観保全への取り組みとは、ただ歴史的な建造物が失われないようにすることだけではなく、観光産業における様々な問題を解決することや、地域住民にとっての生活環境を守ること、その地区が持つ伝統を後世に残すために活動することなど、多くの要素を含む取り組みである。観光公害の対策のために観光客の訪問時間の分散化を課題とすることや、地域が存続し続けるために地域コミュニティの維持を目標とすることなど、直接的な関係が見えにくい一つ一つの取り組みが景観保全にも繋がるのである。